小郡って鴨のまち?

井ノ浦ため池の鴨
2021年撮影

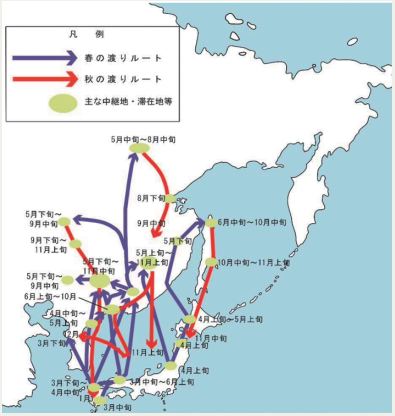
秋の彼岸を過ぎると、鴨は寒さを避け北国から渡ってきます。

小郡市の西北部、三国地区は江戸時代久留米藩の御猟場があり、"鴨の飛来地"として知られるほど鴨猟が盛んで、地元では、冬場の御馳走として食されてきました。また、明治天皇や大正天皇に献上されたという歴史もあります。

マガモの渡りの時期

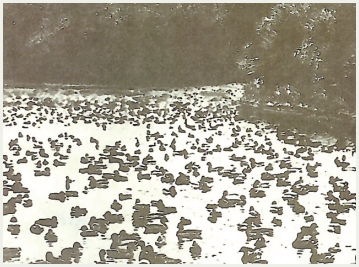
渡り鳥である鴨は、雪が解けた中国の北東部や遠くはロシアのシベリアなどの北国で巣をつくり、産卵し成長します。

そして、秋になると、母鳥とともに四国・九州・沖縄・台湾へ渡って池や沼で越冬し、翌年春に再び北国へ去っていきます。



マガモの渡りの時期
出典:環境省自然環境局

三国(みくに)地区



横隈の井ノ浦ため池を埋め尽くす鴨
(三国小学校所蔵の写真)
1935年ごろ撮影

現在の大きな住宅団地が開発される前、三国地区は雑木林が生い茂り、多くの沼や沢が散在し、人もあまり住んでいませんでした。この静かな環境は、鴨が安心して暮らすのに最適だったようです。また、昔から農業が盛んな小郡では、農業用水として多くのため池を作っていました。ため池は鴨にとって、餌を採食しやすく、休息場所でもありました。

1935年ごろ撮影した井ノ浦ため池では、おびただしい数の鴨が水面を埋め尽くしています。三国小学校に残る「かもの研究」によると、1927年12月には20万羽が飛来したと記されています